

東部州パティカロア県帰還民生計回復支援

- ジェンの活動 -

2012年5月

在スリランカ日本国大使館

特定非営利活動法人ジェン(以下、JEN)は、「生きる力、を支えていく。」をモットーに、世界各地で紛争や戦争、自然災害の犠牲となった人々への支援を届けている日本の NGO です。2004年12月に発生したインド洋津波緊急支援をきっかけに、スリランカ南部ハンバントタ県にて津波被災者緊急復興支援を行い、2007年以降は、北・東部州において国内避難民を対象とした緊急復興支援活動を行っています。

JENの活動地の一つである東部州パティカロア県は、2009年5月まで26年以上続いた国内紛争の被害を大きく受けた地域です。同州で戦闘の最終決戦地となったこの県では、戦闘中に約15万人が家を追われ、国内避難民となりました。現在までに、住民の帰還はほぼ完了しましたが、アクセスの悪い都市や幹線道路から離れた地域には未だ十分な支援が届いていません。これらの地域に暮らす多くの市民が、貧困ライン(3,000ルピー - /月, 約1,900円/月)以下の収入での生活を余儀なくされています。2011年、JENは、外務省が実施する日本 NGO 連携無償資金協力の資金協力を受け、パティカロア県キラン郡とチェンカラディ郡において、帰還民に対する農業支援(排水溝再建、井戸再建、農業研修を含めたコミュニティ強化のワークショップ)を実施しました。



人々の生活を支える排水溝

パティカロア県キラン郡コラウェリ地区ヴァッダヴァン村の幹線道路の周辺には、川や用水路の水を農地へ流すための排水溝が設置されています。しかし、住民は、避難生活のため村を離れていた間、その排水溝を維持管理できず、長年放置していました。荒廃し機能しなくなった排水溝は、帰還した人々が、再び農業を始めるための「生活の再スタート」を阻んでいます。排水溝が機能しないため、雨が降ると、周辺の川や用水路の水が氾濫し、道路が水没し、氾濫した水が周辺農地に流れ込み、大切な農作物の大部分も頻りに流されていました。



荒廃し、機能しなくなった排水溝(修復前)



排水溝再建中の様子

「この道は、町につながる唯一の道なんだ。でも以前は、雨季になると、全く使えなかったんだよ。水が溢れて、まるで大きな川か湖のようになってしまったんだ。我々は町に野菜を売りに行くことも、種子や肥料を買いに行くこともできなかったよ。緊急事態の時は、ボートを漕いでこの道を通った人もいたくらいさ」と、住民の一人、アナンサンさんは話してくれました。このプロジェクトで新しい排水溝が完成し

たことにより、多くの住民が町に出られるようになりました。「町に行けるようになっただけじゃない。村の外から、沢山の人がこの村に野菜や米を買いに来てくれるようになったよ。村全体が、開放されて、とっても明るくなった感じがするよ」と、住民はとても嬉しそうです。

井戸の完成と研修の効果

JEN は、不安定な水の供給と深刻な水不足が復興を阻むこの地域で、農業用井戸の建設とコミュニティの強化のためのワークショップも実施しました。チェンカラディ郡コドゥワマドゥ村に住むシバラジャさんは、2007年に帰還し、その後、生業だった農業を再開しました。しかし、水不足の問題に加え、紛争中に荒れ果ててしまった農地の状態が回復せず、井戸が完成する前は月の収入が1,100ルピー(約700円)を超えたことはありませんでした。「井戸のおかげで、農地に充分水が行きわたるようになって、状態も回復したよ。今では二期作ができるようになったんだ。井戸が完成してからは、乾季の間だってチリヤトウモロコシが作れるようになった。おかげで一年中忙しくて休む暇なんてないよ。収穫時の収入は、10倍以上増えたんだ。信じられるかい？家族みんなで本当に喜んでいるよ」と、大きく笑って話してくれました。



完成した井戸と住民



種子や苗が配布された

同じ村に住むコサラさんは、自宅に野菜販売の店を開きました。「お店を持つ事は、私の長年の夢だったのよ。JEN のプロジェクトに参加して農業指導を受けたから、良い野菜が沢山作れるようになったわ。夢を実現させてくれて、どうもありがとう」。コサラさんの店で売っている野菜は、どれも良質のものだと近所では評判です。同じ村の人だけでなく、隣の村からもたくさんの方が買い物にやってくるようになりました。このように、JEN の支援活動により、人々の生計が確実に向上していることがわかります。

「平和」を実感する日々

JEN が行った支援の効果は、農業活動に限らず、人々の生活の様々な部分にも現れるようになりました。バティカロア県に帰還した人々の中には、夫を亡くした女性も含まれますが、その多くが2人以上の子どもを抱え、収入を得る術を持たず、将来の見えない生活を送っています。生活の貧しさから、帰還後に子どもたちを養子に出したり、施設に預けたりする女性も少なくありません。JEN の活動に参加した女性たちの多くは、農業の知識と技術を少しずつ習得し、自分の力で収入を得ることができるようになっています。最近では、施設に預けた子どもを迎えにいく母親も増えています。

「この村に『平和』が訪れた」と言う住民もいます。紛争が終結した後も、水不足や生活の貧しさを嘆き続けてきた人々が、JEN の活動に参加したことがきっかけとなり、今では村の仲間と一緒に農業を営

み、家族を養うための十分な収入を得ることができるようになったからです。休憩時間になると、農地周辺の木陰からは、楽しくおしゃべりする人々の声と大きな笑い声が聞こえてくるようになりました。まるで、「私たちはもう大丈夫。これからは自分たちの力で頑張れる」と言っているかのようです。

今よりも、さらに明るく楽しい明日を迎えるため、人々は今日も農地を耕し、生活環境の向上のために一生懸命働いています。